

# メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)の外科手術術前除菌操作の是非に関するFeasibility Study(後向き研究)

(九州大学第二外科において1997年から2009年までに手術を受けられた方の中で、術前にMRSA調査を受けた方のうちMRSA保菌状態であった方を対象)

## 【はじめに】

本臨床研究では、術前に鼻腔や咽頭にメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)を保菌している患者さんに、手術の数日前に予めMRSAを殺菌する薬剤を用いてMRSAを除菌することが(MRSA保菌者に対する除菌が)、手術後の手術部位や呼吸器等の感染症の発生率に影響を与えるかどうかを検討する研究です。

MRSAは、皮膚などに存在する常在菌である黄色ブドウ球菌の一種です。黄色ブドウ球菌は、基本的に弱毒菌のため、あなたの抵抗力がしっかりあれば、特に重症化することはありません。MRSAはこの黄色ブドウ球菌の仲間で、性質は黄色ブドウ球菌と一緒にですが、抗生物質の一種である「メチシリン」が効きにくくなっている多剤耐性菌です。

通常鼻腔や咽頭にMRSAが存在しても感染症を発症しているわけではなく、いわゆる「保菌」の状態にあります。MRSAを「保菌」していても健常人であれば、自分の抵抗力で駆除してしまえますが、高齢になるとそのまま「保菌」した状態が続くことがあります。しかし、「保菌」しているからといっても、通常の生活ができる人であれば、重症化して、実害を及ぼすようなことはありません。つまりMRSAを「保菌」していても心配はなく、周りの人にも害を及ぼしません。

一方、MRSA感染症を発症した患者さんは発熱、下痢のような症状が現れ、臨床的に問題となる感染症状を呈し、抗生物質が効きにくいために治療が思うように進まず、敗血症、髄膜炎、心内膜炎、骨髄炎などの重症な感染症を発症することがあり、命に関わる場合があります。

今回の研究では、過去の患者さんの状態を、診療録(カルテ)を元に、調査させていただきます。

## 【研究内容】

当九州大学第二外科において1997年から2009年までに手術を受けられた患者さんの中で、術前にMRSA検査を受けた方のうちMRSA保菌状態であった方を対象に、術後の感染者の発生状況を調査させていただきます。

## 【患者さんの個人情報の管理について】

本研究の実施過程及びその結果の公表(学会や論文等)の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。もし対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

## 【研究期間】

承認日～2010年3月31日

## 【医学上の貢献】

術前に鼻腔や咽頭にメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)を保菌している患者さんに、手術の数日前に予めMRSAを殺菌する薬剤を用いてMRSAを除菌することで(MRSA保菌者に対する除菌が)、手術後の手術部位や呼吸器等の感染者の発生を抑えることができます。

## 【研究機関・組織】

九州大学大学院 消化器・総合外科(第二外科)

教授 前原 喜彦(責任者)

講師 調 憲

連絡先: 〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1

Tel 092-642-5466

講師 調 憲